

学級崩壊の解消 C小学校の場合

ある年 11 月上旬、夕方突然ある老夫婦の訪問を受けた。同年 10 月 13 日（祝）、S 放送・医師会のテレビ番組で当フォーラムと私が紹介された。それをご覧になったこのおじいちゃんが、運送業を営んでいたことから藤枝市の土地勘があり、その番組で数秒映し出された当フォーラム事務局の入り口の映像の記憶を頼りに訪ねて来られた。聞くに、長野県 C 町に住む小学校 5 年生の孫（男子）が 5 月頃から不登校になってしまって、何とかして貰いたく私を訪ねて来たと言う。孫は、盛んに「学校が楽しくない」とか、「学校が怖い」と訴えると言う。学校に行っても給食の前には帰ってきてしまう。担任の先生はなんだか教材開発で県で表彰された程の先生で、その先生がこの 4 月に C 小学校に来るってことで、町では大変期待していた先生なんですけど・・・と話された。お父さんは私と同年で、国立 A 大法学部→私立 A 医科大医学部卒で、当時県立病院の内科科長。お母さんは 5 歳年下で元看護師。5 歳離れた妹がいる。勉強上の問題は、いままで聞いたことがない。そこで私は、そのお孫さんの「学校が楽しくない」と「学校が怖い」と言う 2 つの言葉に、当然にいじめか学級崩壊を連想した。しかし、クラスは男子 8 名、女子 12 名の僅かに 20 名で、8 名の男友達とは仲が良く、家にも来てくれてよく遊んでいると言う。となれば、女の子からのいじめを想像したが、リーダー的な存在の子は男の子 1 人（学級委員）、女の子 2 人（学級委員を含む）で、その子達とも仲がいい。結果、私はその老夫婦に、「おそらく学級崩壊による不登校でしょう。」と申し上げた。

そうしたところ、3 週間ほど経った確か土曜日だったと思う。D 君のお父さんから電話があり、日曜に私のところにお伺いしたいとのことだった。電車で来られるとのこと、藤枝駅前の私の運営する予備校でお会いした。「先週、突然学校からお便りがあり、一昨日緊急の保護者会が開かれた。そこで校長先生が、この学校の 5 年生のクラスが学級崩壊の状態なので、是非皆様のご協力をお願いしたいと述べられた。義父が山下先生から聞いた通りだったので、びっくりして相談に来ました。」と言う。勿論確信はあったものの、本当だったと聞いて私も正直驚いた。クラスの 1 人の男の子はこれを機に転校を決意し、女の子 2 人が不登校、ないし、不登校気味だった。学級崩壊となると、その解消には担任の先生は勿論、学校の職員、子供たちとそこのご父兄と、皆様のご協力が必要である。まずは年が明けて 1 月 18 日（日）、私の息子とその友達のリーダーを連れ、日帰りでその学校に調査に出かけた。雪深い頃だった。そのご両親に、実情をご存じのクラスのご父兄 6 人を呼んでおいて頂いた。また、私からも校長先生と担任の先生とも連絡を取り、面談を申し入れた。この時担任の先生から、「もう私の手には負えません。解消の程何とかお願いしたい。」と言われた。状況は把握できた。しかし更に、2 月 10, 11 日、1 泊 2 日で、今度は私 1 人で調査に出かけた。この時は、転校する男の子を除く 19 名クラス全児童の性格や特技などの人物像と人間関係の把握がその目的だった。

学級崩壊の背景と状況は把握できた。即ち、このクラスは 1 年生から 4 年生までの 4 年

間、きちんとした指導をする女性の先生が担任だった。挨拶も然り、宿題もきちんと出し、身なりにも言葉遣いにも厳しい、お母さんみたいな先生だった。そこで5年生になる時、その先生は他校に転出し、上記の評判のE男性教師が担任となった。5年の新学期を迎えた最初の日、E先生がこう挨拶したと言う。「私はこれまでの先生と違って、全て君たちの自主性に任せる。即ち、宿題はやりたければやり、やりたくなければやらなくてもいい。授業も聞きたくなければ、授業を邪魔しない限り、受けなくても、何をしてもいい。」この挨拶で、お母さんみたいな存在だったこれまでの先生を否定され、特にリーダー格の2人の女子児童達が反発し始め、リーダー格の1人の男子児童もこれに同調。徐々にE先生に対する反発がクラスに広まっていった。宿題は勿論やってこない（やってきてもやってこないと言う）。授業中わざと他の教科の教科書を開いて自主勉強する。授業は邪魔せず、後ろで集まって勉強する。・・・しかし、色々な実験や工作をしてくれるE先生の授業が好きなD君は、その板挟みになり始め、学校を休んだり、行っても1,2時間目で家に帰ってしまう。時折、先生と児童との大げんかが始まり、チョークは投げられ、物が飛ぶ。3人の女子児童が2人の女子児童を集中攻撃することも起こり始め、夏でも長袖の女子児童が男子児童からそのことでいじめられる。担任と児童との関係だけではなく、児童同士の関係も崩れ始めて、上記の如く、学校を休み始めたり、転校を考える児童まで出てしまった。

そんな状況からどのようにしてこの学級崩壊を解消できるか、児童ひとりひとりの調査票を見ながら考えた。すぐにヒントが見つかった。この辺の男の子達の間では野球が盛んで活発な子が多く、女の子達の中には音楽やダンスが好きな子達が多いことに目が留まった。そうだ！ストリートダンスショーと天竜杉のカヌー作りだ。当フォーラムは当時、藤枝のファミリーレスランで、幼稚園児から80歳代のお年寄りまで200名を越す参加者が集まり、盛況にブレイクダンス・ヒップホップダンスのパフォーマンスショーを開催していた。ストリートダンス界に片足を突っ込んだ者なら知らない者はいないスパルタニックロッカーズのメンバーの1人が、当時当フォーラムのリーダーをしていてくれた。このチームこそ、日本初の、そして唯一の国際大会優勝チーム(98年)だ。このチームは、世界最大のダンスコンテストにて2年連続“Best Show Prize”を受賞した(98,99年)など日本だけではなく、正に世界を又にかけての活動を行っていた。そのチームの中心的メンバーであり、ソロとしても98,99年2年連続世界第4位に輝いたTSUYOSHI君が、当フォーラムの青少年の健全育成活動に賛同して頂き、彼の力強い協力のもと当時までに2回行っていった。そのTSUYOSHI君の協力を頂いて、この町でこのクラスの児童達、担任の先生と一緒にブレイクダンス・ヒップホップダンスのパフォーマンスショーを作り上げ、彼らと先生の心を一つにまとめようと考えた。また、実はこの隣の村は、5年前の12月雪の降る日にテーパーテントを張りながら、混沌と流れる天竜川で私が初めてカヌーをしたところだった。それ以来このカヌーは、私達の活動の中心の一つになっている。併せてそのカヌーのすばらしさを体験させるため、このクラスの子達、先生と一緒にカヌーをこの地元の天竜川で作ることで、その団結をより一層強固なものにし、その思い出としてそのカヌーを残して

いこうと考えた。

早速計画書を作り、C小学校校長に提示し、ご了解を得て、3月に募集していた静岡県地域青少年活動総合推進事業費補助金交付事業に申請、受理された。早速下記の趣旨書を作り、4月30日、藤枝で行ったブレイクダンス・ヒップホップダンスのパフォーマンスショーのDVDとカヌーの設計図を持ってC小学校を訪れ、彼らにこの事業の説明をした。担任のE先生にはこの趣旨書を印刷して、6年生のご父兄に配布することをお願いした。

本事業の趣旨

もう30年も前のことになりますが、昭和51年8月、私が静岡大学在学時、仲間の大学生らと静岡市内の小学生30数名を連れ、神奈川県丹沢山系で4泊5日の自然体験キャンプを実施したことが、そもそも当フォーラムの活動の原点になります。静岡県のど真ん中、まむしやいたちは勿論、時折たぬきも闊歩し、野いちごやグミ、あけび、山芋が群生する金谷町の山間で育った私は、当時インベーダーゲームやテレビゲームに浸り始めた子ども達に、大自然の素晴らしさはもとより、大自然の怖さ、畏敬さを体験させたく、同年10月、小中高生対象に野外活動やキャンプ、合宿を行う法人を設立。子ども達と私とのやり取りを綴った活動記録が静大の心理学の先生の目に触れたことから学外で心理学を教えられ、それが私達の活動の中でより活かされ、その後も本格的な心理カウンセリング・交流分析の研修を受け、また同講座を開講しながら活動を続けて参りました。

そんな折、5年前の12月、静岡カヌークラブのS会長らと、雪の降る隣村の**館でティピーテントを張りながら、混沌と流れる天竜川で初めてカヌーを体験しました。勿論凍えるほどの寒さにもかかわらず、カヌーと共に天竜の流れに乗り、約1kmばかりの川下り、体が熱くなる程の素晴らしい体験でした。大自然との一体感、カヌーはそれを私達に体験させてくれます。それ以来このカヌーは、私達の活動の中心の一つになっております。そんなカヌーの素晴らしさを私達に教えて頂きましたS会長が去年の暮れ、急逝。その思い出とこれまでの感謝を込め、この夏の交流合宿の地にこのC町少年自然の家を選びました次第です。

そして、ストリートダンス＝ブレイクダンスショー。ストリートダンス界に片足を突っ込んだ者なら知らない者はいないスパルタニックロッカーズ。このチームこそ、日本初の、そして唯一の国際大会優勝チーム(98年)なのです。このチームは、世界最大のダンスコンテストにて2年連続“Best Show Prize”を受賞する(98,99年)など日本だけではなく、正に世界を又にかけての活動を行なっています。個人個人が繰り出す技の凄さと、チームダンスの一体感の双方を兼ね備えた、世界においてもまれに見るチームです。そのチームの中心的メンバーであり、ソロとしても98,99年2年連続世界第4位に輝いた唐澤剛史君が、当フォーラムの活動に賛同して頂き、彼の力強い協力のもと昨年9月と今年の1月に藤枝のファミリーレスランで、初めてのブレイクダンス・パフォーマンスショーを開催。自己実現の時代にあってなかなか自己表現の場を見出せない子ども達に、真のBreakin'の世界

を紹介し、世界を極めたダンサー達からダンス指導をもして頂き、そうした場で自己を表現し、共に生きる目的を掴むきっかけにして頂くとの趣旨に、共に前売り券が 2 週間前には完売、幼稚園児から 80 歳代のお年寄りまで 200 名を越す参加者が集まり、大盛況でした。

戦後の大変動の中、社会は高度経済成長を経て核家族化が進み、近年は人間関係も希薄になり、地域社会も崩れかけ、子ども達の社会にも様々な現象が表れてきております。私達はこれまでの長い活動を通じて、人間は群れ集う中で成長すると考えています。異年齢の仲間達と群れ集う中で、自分を知り、仲間を知ることによって真の心の交流が生まれ、群れ集う素晴らしさを体得することによって豊かな人間関係を築いていくために、長期の休み毎に 2 泊 3 日から 4 泊 5 日の交流合宿を開催し、子ども達の様々な現象に対応してきております。

以上のような経過と趣旨から今回の交流合宿は、A 町の子ども達と静岡県の子も達が、2 ヶ月にわたって天竜杉でカヌーを作り、ダンスの練習を重ねて、7 月 31 日に C 町少年自然の家に集い、カヌーの試乗とダンスの競演によって心をひとつに真に交流することを目論んでおります。そして、そんな子ども達の姿を是非子ども達のご家族は勿論のこと、C 町の多くの皆さんに見て頂きたいと思ひます。皆様にご協力をお願い申し上げます。

****. 4. 23

NPO 静岡県教育フォーラム 理事長 山下 泰孝

6 月 6 日、第 1 回目の C 町でのカヌー作りとダンスの練習が始まった。8 名の児童が参加し、カヌー作りの説明とダンスの基本ステップの練習をした。TUYOSHI 君が世界の技・ヘッドスピンを披露してくれた。みんな驚いた。藤枝でも 6 月 13 日、第 1 回目のカヌー作りが始まり、ビデオで今後の活動の説明をした。6 月 19 日はダンス練習も始まった。6 月 27 日、C 町で第 2 回目のカヌー作りとダンスの練習を行った。いよいよカヌーの組み立てが始まった。ところが、E 先生が上記のこの事業の趣旨書を未だに 6 年生の児童の父兄に配布してないことが判明。教頭先生が責任を持ってご父兄に配布し、6 年生児童達はダンスイベントのポスターを作って、町内のあちこちに貼ることになった。6 月 29 日、藤枝で第 2 回目のダンスの練習を行った。いよいよダンス練習に熱が入り、参加者も多くなってきたので、7 月は毎週練習を行うことになった。7 月 6, 13, 15, 20, 22, 27 日と夜 2 時間、ダンスの練習をたっぷり行った。7 月 11 日は、藤枝で 2 回のカヌー作りを行い、コーキングを残してほぼ完成した。7 月 15 日、C 町でのダンス練習。A 町から少し離れた I 市でダンス教室を主宰している、TUYOSHI 君の教え子の Y 先生（女性）が、この日から C 町の児童達のダンスの練習を応援して頂くことになった。7 月 18 日、C 町での 3 回目のカヌー作り。こちらでもようやくカヌーが完成した。藤枝で作っていたカヌーのコーキングも終わった。7 月 30 日、いよいよ信州・I 谷夏さわやか交流合宿が始まった。7 月 30 日朝 6 時半、マイクロバスとワゴン車で藤枝を出発、12 時半、C 町少年自然の家に到着。昼食後、周辺施設でくつろいだ。15 時から同所大ホールで、C 町の児童達と藤枝からの参加者みんなでダンスイベント

の会場作りを始めた。特別参加頂いたネイルアートのプロから参加者全員にネイルアートしてもらった。17時半、夕食。18時、大学の試験を終えたリーダー5名が藤枝を出発。19時から1時間同所で交流会。ネイルアートの先生方は、仕事のため藤枝に帰った。参加者達は入浴を済ませ、21時半、就寝。23時、後発組のリーダー達が到着。24時、ダンスのプロ・東京チームが打ち合わせを終え、東京を出発。翌31日朝5時過ぎ、東京チームC町少年自然の家到着。疲れなんかなんのその、5時半から1時間程最終練習を行った。朝8時、雨天のため近くのプールで手作りカヌー試乗会を行った。昼まで自由時間。プールに入る者、ダンスの練習する者、様々だった。昼食後、ダンス会場の飾り付けとリハーサルを行った。

ところが、この最中C小学校の6年生の児童達が突然いなくなった。会場の外に飛び出して探していた私のところに、リーダー格M君が話に来た。「E先生が会場に来たので、僕達は隠れた。山下先生やTUYOSHI先生達と一緒にこれまでこのイベントのためにやってきたが、E先生は山下先生が書いたあのイベントの案内すら配らなかった。このまま僕達が出演し、E先生が挨拶すれば、挨拶しなくてもE先生のクラスの僕達なので、このイベントを見に来た人達はこのイベントはE先生の成果とみると思うから、突然で悪いんですが、僕達はみんなて話し合い、出演しないことに決めました。「分かった。みんなで話し合った結果ならそうする。しかし、イベントの最後に、このイベントを作り上げてきた我々の仲間として君達を紹介したいがいいかい?」「分かりました。みんなに聞いてみます。」私が目論んだクラスの児童達の心は一つにまとまったが、E先生との溝は埋まらない。私は次の手を考えた。E先生は会場に来られたが、程なくして帰られた。すると、再び6年生の児童達が会場に来た。私の提案を受け容れてくれ、イベントの準備を手伝ってくれた。14時半、開場。15時、ダンスイベントが開演した。HIPHOP&ブレイクダンスショーは、藤枝チーム→Y. Junior I (F市のY先生のチーム)→竜巻旋風隊(藤枝)→Y. Junior II→東京チームの順に出演した。この模様はその後一週間、夕方の地元のケーブルテレビの番組で放映された。プロのダンサーによるダンス指導とダンス交流が行われた。イベントの最後に、このイベント開催にご協力頂いたC小学校6年生の皆さんが紹介され、割れんばかりの拍手が起こった。夕食後、C町の児童達との交流会が行われ、イベントの労をねぎらった。翌日、自然の家の近くの陶芸体験館で何人かの6年生の児童達と陶芸を楽しんだ後、我々は藤枝に帰った。

8月17日、C町少年自然の家にて、今回のイベントを中心となってやってくれたC小学校6年生5名と私と当フォームリーダー2名とで、今回の交流合宿を振り返った。私は6年生の児童達に、E先生にもう一度チャンスを与えてくれと頼んだ。それは9月11日に、今回の企画協力のお礼に、C小学校6年生とE先生を招いて、五平餅とスモークチキンを作り、ご馳走し、E先生と児童達の融和を図ることだった。児童達は、我々がここまでやってきてくれたことでもあり、私が懇願したことから了解してくれた。

当日は、6年生12名とそのご父兄2名がC町少年自然の家に来てくれ(来れなかった児

童はお祭りの準備だった)、ご父兄と児童達は五平餅りを、私はスモークチキンを作った。その日は地元のお祭りで、6年生の児童達は6時半には家に帰り、支度をしなければならぬことから、E先生には私の携帯電話の番号も知らせて、5時に来るようお願いしておいた。しかし、5時半になってもE先生は現れず、連絡もなかった。C町は山間地で坂道ばかり、自宅まで歩いて30分以上もかかる子もいたため、5時半すぎ待ちきれずみんな五平餅とスモークチキンを味わった。6時過ぎ、6年生の児童とご父兄は仕方なく家に帰った。6時半近くによくE先生が来られた。母親と病院に行っていたとのことだった。私は、冷めた五平餅とスモークチキンを渡して、自然の家の宿舎に戻った。最後のチャンスを生かせられなかった。と言うより、私は児童達とE先生との溝をより深めてしまった。

翌日午前、宿舎にC小学校の校長先生が来られた。私は今後について意見を求められた。私は、昨日のことをご報告させて頂き、大変申し訳ない結果になったことを深くお詫びし、これ以上の関わりは辞退させて頂いた上、意見をとられれば、この6年生を楽しく卒業させてあげるためには、担任の先生の交代しかないと申し上げた。E先生とH大学の同期である校長先生は、10月下旬に6年生を中心とした小学校のお祭りがあるので、その結果を見て判断したいと申された。

10月下旬だったか、校長先生からその後の状況のお電話を頂いた。12月2日、この真意は分かりませんが、あるご父兄からFAXを頂いた。「・・・略・・・11月29日、子供たち曰く、E先生が牛乳びんとイスを投げた。E先生曰く、どかただけ・・・という、私にとってショックなことがありました・・・その日の夜、校長先生、教頭先生、E先生と親の話し合いがありました・・・翌30日からE先生は教室に入らず、音楽のM先生中心の授業だそうです、詳しく分かりません。今後どうするか今日2日夜、学校で説明会があります・・・」そして、12月8日に「・・・6年生ですが、社会のT先生、理科の教頭先生以外は、ほとんどM先生のように。男子は給食を食べた後も教室でくつろぐようになったそうです。昨日Hさんのお母さんに出会ったら『宿題をよるこんでやっていた』とおっしゃっていました。また、昨日教頭先生にTELしたところ、まだそんなにコロッとすぐには良くなるかと言いつつも、日増しに良くなってゆく、こんなに変わっていいのかなあと思うほど変わったとおっしゃっていました。席替えしたり、係も決め直し、教室もきれいになったようです・・・いろいろとありがとうございました。」とのFAXを頂いた。更に、翌年の3月22日には、「お陰様で3月17日6年生19名全員そろって卒業式を終えることができました。ご存じのようにD君(最初に相談に来られたおじいさんのお孫さん)も途中から給食と一緒にとれるようになり、ほんとうによかったです。(実は、D君はその後内科的原因で食事がとりづらく、そのためもあって給食の前に帰っていたことが判明、入院治療し、完治した。)・・・E先生はI市のM小へ転勤されることになりました。・・・12月から6年生の副任として教えて頂いたM先生には最後まで受け持って頂き、卒業式も先頭はM先生、一番後ろをE先生が歩いておられ、卒業証書もM先生から校長先生へと手渡されていたので、子供達の気持ちを尊重してくれたと安心しました。・・・

略」という手紙を頂いた。

最後に、本事業はC小学校の学級崩壊の解消だけが目的ではなく、静岡からの参加者の不登校解消という別の側面がありましたが、本事業に補助金を交付して頂いた静岡県教育委員会に感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成21年9月28日